

## 「若者の政治への関心」

富岡 亜純

私は政治や選挙に対して考えることがあります。それは若者の選挙への関心が低いということです。そのため、関心を高めるための方法として三つ考えました。

一つ目は幼少期から政治に関わりを持つことです。勿論、選挙に参加する、政治を動かすというようなことではありません。私たちは中学生や高校生になり突然、「有権者だ。」「若者の投票率が低い。」と言われます。中学高校で得た選挙に対する知識は選挙に行きなさいということだけです。しかし、何もわからないまま選挙に行けと言われても何をどうすればいいのか、何を考えて投票すればよいかわかるはずありません。そのため、小学生のような小さいときから政治に触れていくことでそのような状態にならないのではないかと考えました。具体的には、宮崎の現状問題を紙芝居のような馴染みやすいものにして聞かせるというものです。難しい話をしても理解できなければ何にもなりません。小さいころから、理解できるように工夫しながら政治に触れていくことが有権者の関心を高めることにつながると思います。

二つ目は、一つ目にかぶる部分もありますが、立候補者の公約などを分かりやすくするということです。私は姉が有権者になった時の初めての選挙の際、一緒に政見放送を見ました。しかし、言葉が難しく、喋りも淡々としており、とても分かりにくかった記憶があります。そうになってしまうと政治に関心があっても自分の意見や考えを見つけることができず、投票数に影響が出るのではないかと考えました。立候補者自身の選挙活動を否定するわけではなく、子供向け、若者向けの選挙番組があってもいいのではないかと考えます。その番組では、選挙時期は立候補者の公約、どのような問題に対してどのような対応をしようとしているのかをそれぞれまとめて分かりやすく放送することが必要だと思います。そうすることで、あまり政治に関心を持っていない人でも聞きやすく、自分の考えをまとめやすいのではないかと考えます。

三つ目は、若者の考え方を意識的に変えていくことです。日本の政治に対してインタビューで批判をしている若者がテレビに映っているものをよく見かけます。しかし、その批判ができる立場であるのは選挙に参加した人だけであるということを私たちは認識していなければなりません。投票を行わないということは、政治への不参加を示し、さらに、その選挙においては最終決定に従うという意思表示でもあると私は考えています。そのため、無投票の人は政治に対して批判できる立場ではないと考えます。そのような人たちは最終決定に従うことを示しているため、政治に文句を言うことはできないと考えます。投票

に行かないという人たちの中には、「投票しても何も変わらない。」「誰にも投票したくないから投票しない。」という人もいるでしょう。そういう人は白紙で出せばいいのです。投票では白紙で出すことができます。それは政治への参加を示しつつ、その時の立候補者には投票しないという意思表示でもあります。勿論、政治への参加をしており、自分の意志も伝えているため、批判をすることもできます。私たちは自分たちの行動にどのような意味があるのかを考えて行動していかなければならないと思います。そして、そのためには共通した正しい認識を学校の授業で取り上げることが必要です。ただ選挙に行かなければならないと言うだけでなく、いかなければならない意味をしっかりと生徒に教えることで若者の政治の関心、正しい知識を身に付けることができると思います。

以上まで、私は若者の政治への関心を高めるために三つの提案をしました。一つ目は幼少期から政治に触れること、二つ目は選挙を分かりやすく伝えること三つ目は、若者の考え方を変えることです。全体を通して私が言いたいことは、私たち若者は政治に触れる機会が少ないということです。そのため、政治に関する知識、正しい考え方などをしっかり学ぶことで選挙に積極的になる人は増えると考えます。これらのことは私個人の考えであり、間違った知識があるかもしれません。しかし、若者の政治への関心が少ないことは確かであり、また、それに対して何か対策を打たなければならないことも確かです。そのためにも、どうすれば若者が関心を持ってくれるのか、どうすれば自分たちの次の世代が政治に積極的に参加しやすくなるのかを私たちは考えていかなければならないと思います。